

2. 京都産業大学

テーマ	学生ファシリテータの考えから調べる活動意義		
発表代表者	落合 倫世 京都産業大学 現代社会学部 2 年次		
連名発表者	久保田 悠 京都産業大学 外国語学部 3 年次		
	上田 爽心 京都産業大学 法学部 2 年次		
	大島 和美 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室（F 工房）職員		
	宮崎 知美 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室（F 工房）職員		
	久保 亜希 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室（F 工房）職員		
キーワード	学生ファシリテータ	組織拡大	
	学びの支援	成長実感	
発表の概要	学生ファシリテータ（以下、学ファシ）は、主に初年次向けの授業などでグループワークの円滑な進行をサポートするボランティアの学生スタッフである。アイスブレイクの進行や受講生同士の話し合いのサポートを通じて学生の主体的な学びを支援している。 過去 2 年間で活動者数は増加し、今期 90 名を超えた。加えて、有志の 4 年次生が職員主導のもとサポーターとして学ファシに向けた研修の企画・運営等の活動をしている。 現在多くの学生が参加しているが、学ファシは活動にどのような魅力を感じているのか。私達は多くの学生に目標があり、何らかの力を得られるという期待があるのではないかと考えた。 そこで、私達は学ファシに対して加入動機や活動のモチベーションから、求めているものと実際の活動で得たものを調査し、比較する。 本報告では「学ファシ活動でどのような力が身に付くか」を考察し、活動の意義を示す。		